〔５番　青島美貴さん登壇〕

○５番（青島美貴さん）　青島美貴です。よろしくお願いいたします。

それでは、通告に従いまして質問させていただきます。

現在、私は市内の製茶問屋で仕事をしている傍ら、ドリームマップファシリテーターとして県内の小・中学校で自分だけの夢を描き、それに向かって主体的に生きることについてさまざまなワークを取り入れながら生徒や先生参加型の授業を受け持つことがあります。ドリームマップ授業とは、１時間目から６時間目を１日使って子供たちが自分というのはどんな人なのだろうという振り返りを軸に、自分にしかかけない夢の地図を描いて発表し合うことで夢を共有し、お互いに応援し合う。そして何をすれば夢をかなえやすくなるのかを伝える課外授業のことです。生徒たちの中には、始まる前には夢なんてないものとか、興味ない、発表なんて恥ずかしい、めんどうくさい、そんなふうに構えている子が、６時間目の発表では目をきらきらさせて自分の夢を語る姿に、いつも感動しております。夢の大小は関係ありません。未来を語る姿勢、伝え合う尊さ、そしてそれをみんなで分け合えたときの心強さ、それを伝えていきたいと思っております。

これから先の激しい社会の変化に対応していく力を子供たちがどうやって身につけるのか。それには子供たち自身が自分を知ること、自分は何にわくわくして体が自然に動くのかを知る特別な時間を通して、強い自分軸を身につけていく練習を重ねていくことが必要ではないかと考えております。強い自分軸をつくるには、主体的に生きる力が不可欠だと思っております。みずからの道をブルドーザーのように切り開いて開拓していくには、ゲームやＳＮＳでは感じることのできない生きたコミュニケーションができること、そしてお互いをよく知り合うことで、お互いに応援し合うという姿勢というものができることが必要ではないでしょうか。そんな気づきや発見を分け合える課外授業を子供たちと教育者、親が共有できる機会を公教育の場でつくれないかと子育てしやすいまち島田市に期待しております。

そこで、次のとおり質問させていただきます。

(1)小中高校の子供の主体性を伸ばす取り組みの具体的な例を教えてください。

(2)平成30年度における島田市の教育方針の中に夢育が取り上げられていますが、具体的にどういったものかを教えてください。

(3)授業での外部団体の採用や市民の参画についてお考えを教えてください。

以上、３点について質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

以上です。

〔５番　青島美貴さん発言席へ移動〕

○議長（村田千鶴子議員）　濱田教育長。

〔教育長　濱田和彦登壇〕

○教育長（濱田和彦）　それでは、青島さんの１の(1)の御質問についてお答えします。学校では日頃より子供たちの主体性を育成するために、対話的な授業や体験的な活動を重視しています。あわせて島田市では自己肯定感を高めるために、教育活動全体を通して人に役立つ活動に取り組むことを推奨しています。人のために行動することで自分自身のよさを発見したり、自信につながったりすると考えています。毎年、人のために役立つ行動や自分の生き方が変わったことについて全小・中学校から体験記を募集しており、年度末に誰かの役に立った活動体験記、自分の生き方が変わった体験記として冊子を作製しております。

次に、１の(2)の御質問についてお答えします。「夢育・知育」という言葉は島田市立小学校及び中学校のあり方検討委員会の提言書に教育理念として掲げた「地域総ぐるみで進めましょう　夢育・知育の花咲く・島田の教育」がもとになって

います。これを受けて平成29年度から２年間、初倉中学校区に夢育・知育推進研究を指定しております。変化の激しい未来の中で自分の夢を実現するために、社会で通用するコミュニケーション能力の育成やＩＣＴ教育の充実と地域や小中の連携に取り組んでいます。例えば英語授業では、タブレットパソコンを用いて、自分の好きなものは何かを提示しながら、仲間に英語でプレゼンテーションをするとともに、よりわかりやすく伝えるにはどのような工夫をしたらいいか議論するなど、自分の思いや考えを深める授業を行っています。

また、初倉中学校区全ての学校で、今、思い描いている将来の夢や目標を掲示することで、子供たちに夢を意識させるとともに、それに向かって一人一人努力できるように支援をしています。

次に、１の(3)の御質問についてお答えします。これから学校教育では今まで以上に子供たちの学びや発達を支援していくために、家庭や地域との連携・共同が欠かせないものになります。先ほど初倉中学校区で夢育・知育推進研究を行っている等をお伝えしましたが、この知育では地域に根差して成長し、みずから地域を育てていく子供を育む活動を推進しているところです。具体的には初倉中学校の生徒が地域のお祭りのボランティアに参加し、子供たちが喜ぶお化け屋敷の企画や運営に携わったり、初倉公民館で行っている学習支援、初倉寺子屋事業において地域の方に混じって中学生が小学生に対して学習を教えたりするなど、子供が地域に貢献する活動にも取り組んでいます。今後、こうした知育の取り組みを島田市の全小・中学校に広げていきたいと考えております。

以上、答弁申し上げました。なお、再質問については担当部長から答弁させる場合がありますので、よろしくお願いします。

○議長（村田千鶴子議員）　青島さん。

○５番（青島美貴さん）　御答弁どうもありがとうございました。

それでは、再質問をさせていただきます。

１の(1)の質問に関連して、主体性を育成するために対話的な授業や活動に取り組んでいるとのことでしたが、具体的な授業内容について教えていただけますでしょうか。

○議長（村田千鶴子議員）　濱田教育長。

○教育長（濱田和彦）　例えば社会の授業では、スーパーマーケットに多くの人が買い物に行くのはなぜだろうかという課題を解決するために、自分で予想を立てて、実際に買い物に来ている人たちに聞き取り調査をしたり、幾つかの広告を比較したりして、そのお店の工夫について議論する中で、多面的・多角的に考えるような授業を行っています。

以上です。

○議長（村田千鶴子議員）　青島さん。

○５番（青島美貴さん）　どうもありがとうございました。

次に、１の(3)について再質問させていただきます。初倉中学校区で夢育・知育推進研究に取り組んでいるとのことでしたが、子供の夢を育むような最近の取り組みは何かございましたら教えてください。

○議長（村田千鶴子議員）　濱田教育長。

○教育長（濱田和彦）　最近の取り組みの一つの例として、「ようこそ夢先生」と題して７月12日に初倉小学校の卒業生で現在、藤枝ＭＹＦＣの選手として活躍している北川滉平選手を招いて講話をしていただきました。北川選手からは、小学校時代からプロサッカー選手になろうと決めて努力を積み重ねてきた結果、夢が実現したことや、小学校時代はどんなことにも全力でチャレンジすることが大切であると、こういうようなお話をいただいたところです。

これ以外にも毎年、夢育・知育推進事業交付金を活用して、さまざまな地域の方を招いての教育活動を行っているところです。

以上です。

○議長（村田千鶴子議員）　染谷市長。

○市長（染谷絹代）　主体性を育成するためにという青島さんの御質問について、私が思うところを少しだけ述べさせてください。21世紀の社会はサイバー社会、いわゆるインターネットの擬似社会ですよね。それからボーダレス社会、もう国境なくヒト・モノ・カネが行き交う社会、そしてマルチプル社会といって、一人の人が幾つもの役割や可能性や職業を兼ねる、そして現実社会、この４つの社会から成り立つと言われているのです。そういう社会においては教えられたことをただひたすら覚えるだけだったら、これはもうＡＩに置きかえられてしまう。自分で学びたいことを選んで、みずから学ぶ姿勢というものが不可欠な時代にもう既になっているのです。そうした中で、答えのない世界、あるいは教えない教育、こういったものが教育現場でも進んできております。アクティブラーニングとか、答えを覚えるものではなくて、発見して、日々改善していくものだという、そういった育み方といいますか、これが既に教育の現場でも少しずつ進んできていますし、現実の社会は既にそうやって動き始めています。ですから、これまで頭がいい人というのはたくさんのことを覚えて知っている人だったけれども、そうではなくて、いろいろな環境下において自分の考えをまとめられたり、それを実践できる人材というふうに思っていますので、今回の御質問はまさにこれからの教育に必要なものということに対して、気づきを再認識させていただける、そういった質問だったと思って、ありがたく思っております。

○議長（村田千鶴子議員）　青島さん。

○５番（青島美貴さん）　どうもありがとうございました。

今回のことに関しましていろいろ私も考えたのですけれども、御返答いただきまして、自分たちが次へつなげていく知育だったり、子供の主体性を伸ばす取り組みが公教育の場面で積極的に取り組まれているということがわかりました。子供が主体的に生きて、たくましく自分の道を開いていけると安心しております。ありがとうございます。

私は冒頭で申し上げたとおりドリームマップ講師、ドリマ先生として県内の小・中学校で一日講師をさせていただくとお伝えいたしました。どのような活動ではあるかということを少しだけ紹介させてください。

ドリームマップ授業というのは、夢を描く、信じる、伝えるプログラムを通じて主体的に生きる力を育むことを目的とした教育プログラムです。平成16年から18年度に経済産業省の、最初は企業課教育促進事業というものに採択されております。その、小学４年生から中学生を中心に、高校、大学などで授業実績を積み重ねてきました。平成28年度には22都道府県の218校より要請があり、１万6,198名にドリームマップ授業を届けることができました。2017年にはその功績が認められて、経済産業省のキャリア教育アワードを受賞させていただいております。１日の授業の中で子供たちは、夢とはわくわくすること、心が動くことであると知り、自分が好き、わくわくすることや、自分の価値観を大切にしながら、自分はどんな大人になりたいかを伸び伸びと自分らしい夢を膨らませてくれます。また、自分自身の幸せとあわせて他者の幸せやよりよい社会に貢献する、活躍する姿を想像する過程で、自分の存在価値に気づきます。また、子供たちはクラスメートとともに夢を描き、一つとして同じ夢がないということ、それぞれがかけがえのない大切な思いであるということを知り、人生の主役は自分であるということに気づき、みずからの人生を切り開く勇気を持てると思っております。

きょう、ちょっと資料を持ってきたのですけれども、これは、ここに１枚、どういうものかということなのですけれども、これがドリームマップ

というものです。本当に自分がわくわくするものを切り貼りするだけのように見えるのですけれども、その前に自分での振り返りがあったりだとか、自分を深掘りしたりして、自分というのはどんなものが好きなのかとか、どういうことにわくわくするのかということをこちらのほうに書いております。真ん中に書いてあるのが、私の夢がかなったときの年齢です。2020年の11月になっているのですけれども、このときにもう夢がかなった状態でこれをつくるのですが、私のキャッチフレーズは、これからの人を応援、頼れるサポーターです。これが私のキャッチフレーズになります。これはいつもリビングに貼ってあるので、家族が見てくれて、私の夢を応援してくれたりだとかするのがとてもうれしいです。夢を描いて信じて伝えると、応援者があらわれます。その応援者がふえると、夢というのはかなえやすくなると思います。そんな経験の積み重ねを、ぜひ子供のときから感じてほしいと心から願っています。その活動を地域で広げていきたい、それが私の夢です。

　本日はこのような機会をいただき、本当にありがとうございました。以上で終わります。どうもありがとうございました。